

Title	FPD (フラットパネルディスプレイ) 産業に関する考察 - プラズマディスプレイ 苦戦の理由 -
Sub Title	
Author	李, 昌原(Ri, Chiyanuon) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2382号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2382

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	浅川研究会	学籍番号	80731174	氏名	李 昌原
FPD(フラットパネルディスプレイ)産業に関する考察 - プラズマディスプレイ 苦戦の理由 -					

液晶やプラズマを代表とする FPD(フラット・パネル・ディスプレイ)は、2000 年代以前までノートパソコン用やモニター用が主な用途であり、ブラウン管テレビの画質や低価格の壁を乗り越えることはできなかったためテレビ用として用いられることは殆どなかった。しかし、2000 年以降、FPD 産業は飛躍的な発展を遂げ、2007 年度の FPD 産業の世界市場規模 1,000 億米ドル(10 兆円)に達することになる。そのなか、液晶ディスプレイと共に FPD を構成するプラズマディスプレイ市場規模(2007 年度/テレビ基準)は、世界全体で約 154 億ドルとなり、全世界 FPD 市場のわずか 15%にすぎない。

プラズマディスプレイの特徴は、複雑な駆動構造を持つ液晶(TFT-LCD)に比べ、設備投資額が低く、低コストでの生産が可能であることである。そして、バックライトを必要とする液晶ディスプレイに対し、プラズマディスプレイは自発光で光させていて、動画解像度が優れていると知られている。しかし、実際のところ、現在のプラズマディスプレイは、テレビ用アプリケーションとして生き残るために液晶との激しい戦いに直面している。

本研究では、FPD 産業におけるプラズマディスプレイの苦戦の理由を多角的な側面(消費者からの観点・参戦しているメーカー間の戦略的な観点・技術イノベーションに関する観点)から探る。この研究により現在のプラズマディスプレイ関連プレイヤーがより効果的な意思決定を出来ることを、さらに、この研究が FPD 産業での新規アプリケーションなどの成長戦略を立てる際に役立つことを望む。